

ねん どかつどうほうしんあん
2012年度活動方針案

ほっかいどう やかんちゅうがく かい ねん がつ にち ぎむきょういく
「北海道に夜間中学をつくる会」は2007年5月19日に、義務教育
じっしつてき え ひと まな けんり ほしょう めざ
が実質的に得られなかった人たちの学ぶ権利を保障することを目指
して、つぎの5項目の要望の実現を求めて発足しました。

ほっかいどう こう やくわり にな こうりつ やかんちゅうがっこう こうりつ
・北海道におけるセンター校の役割を担う、公立夜間中学校(公立
ちゅうがっこうやかながつきゅう さっぽろし かいせつ
中学校夜間学級)の札幌市での開設。

どうない じしゅ やかんちゅうがく うんえい 民間だんたい たい がっこう きょうしつ
・道内の自主夜間中学を運営する民間団体に対する、学校の教室を
しゅ しせつ ていきょう ざいせいてきしえん
主とする施設の提供と財政的支援。

きょういく う きかい ほしょう こじんきょうし はけん しさく
・教育を受ける機会を保障するため、個人教師の派遣などの施策。

きそん がっこう う い たいしょうしゃ かくだい
・シニアスクールなど、既存の学校の受け入れ対象者の拡大。

じゅうしょへんこうとどけ びょういん もんしんひょう こうてきしよるい かんじ
・住所変更届や病院の問診票など、公的書類の漢字にひらがなをふり、
くる やわ
苦しみを和らげること。

たひつよう しさく
・その他必要な施策。

ご ぜんどう とし じしゅ やかんちゅうがく かいせつ あさひかわえんゆう
その後、全道3都市での自主夜間中学の開設がなされ、旭川遠友

じゅく ねんめ はい ほんねん がつ だい かい そつぎょうせい おく だ
塾は5年目に入り、本年3月、第2回の卒業生を送り出しました。

はこだてえんゆうじゅく だい かい そつぎょうせい おく だ くしろ ねんめ
函館遠友塾は第1回の卒業生を送り出し、釧路「くるかい」は4年目

むか
を迎えました。

そうしたなか、^{ほっかいどううちかく}北海道内各^{じしゅ}自主^{やかんちゅうがく}夜間^{じゅこうせい}中学^{がくしゅうしゃ}の^{しえんしゃ}受講生^{こうりゅう}や^{すす}学習者^{すす}さん
たち、^{しえんしゃ}スタッフ^{こうりゅう}や^{すす}支援者^{すす}たちの^{すす}交流^{すす}が進^{すす}んで^{すす}おり^{すす}ます。

また、^{さっぽろえんゆうじゅく}札幌^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}遠^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}友^{きょうしつ}塾^{しやう}にお^{しやう}いて^{しやう}も、^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}札幌^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}市^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}立^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}向^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}陵^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}中^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}学^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}校^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}の^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}教^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}室^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}を^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}使^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}用^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}
^{じゅぎやう}した^{じゅぎやう}授^{じゅぎやう}業^{じゅぎやう}から、^{じゅぎやう}い^{じゅぎやう}っ^{じゅぎやう}そ^{じゅぎやう}う^{じゅぎやう}授^{じゅぎやう}業^{じゅぎやう}の^{じゅぎやう}充^{じゅぎやう}実^{じゅぎやう}に^{じゅぎやう}む^{じゅぎやう}け^{じゅぎやう}て^{じゅぎやう}水^{じゅぎやう}曜^{じゅぎやう}日^{じゅぎやう}の^{じゅぎやう}他^{じゅぎやう}に^{じゅぎやう}も^{じゅぎやう}授^{じゅぎやう}業^{じゅぎやう}
^{にっすう}日^{かくだい}数^{げんこう}を^{きやうか}拡^{かもくすう}大^ふし、^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}現^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}行^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}4^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}教^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}科^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}の^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}科^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}目^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}数^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}を^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}増^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}や^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}す^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}た^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}め^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}に、^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}札^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}幌^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}市^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}や^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}札^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}幌^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}市^{さっぽろしりつこうりょうちゅうがっこう}
^{きやういくいんかい}教^{きやういくいんかい}育^{きやういくいんかい}委^{きやういくいんかい}員^{きやういくいんかい}会^{きやういくいんかい}に^{きやういくいんかい}要^{きやういくいんかい}望^{きやういくいんかい}を^{きやういくいんかい}し^{きやういくいんかい}て^{きやういくいんかい}き^{きやういくいんかい}ま^{きやういくいんかい}し^{きやういくいんかい}た^{きやういくいんかい}。

こ^{こうりゅう}の^{ふか}よ^{ぎやうせい}う^{きやういくいんかい}な^{きやういくいんかい}交^{きやういくいんかい}流^{きやういくいんかい}を^{きやういくいんかい}さ^{きやういくいんかい}ら^{きやういくいんかい}に^{きやういくいんかい}深^{きやういくいんかい}め^{きやういくいんかい}、^{きやういくいんかい}行^{きやういくいんかい}政^{きやういくいんかい}に^{きやういくいんかい}む^{きやういくいんかい}け^{きやういくいんかい}た^{きやういくいんかい}要^{きやういくいんかい}望^{きやういくいんかい}を^{きやういくいんかい}実^{きやういくいんかい}現^{きやういくいんかい}す^{きやういくいんかい}る^{きやういくいんかい}た^{きやういくいんかい}め^{きやういくいんかい}、
^{つぎ}次^{こうもく}の^{こんねんど}項^{かつどう}目^{すす}に^{すす}あ^{すす}げ^{すす}た^{すす}今^{すす}年^{すす}度^{すす}の^{すす}活^{すす}動^{すす}を^{すす}進^{すす}め^{すす}て^{すす}い^{すす}き^{すす}ま^{すす}す。

1. ^{ぜんどう}全^{じしゅ}道^{やかんちゅうがく}に「^{まな}自^{ひとびと}主^{つど}夜^{つど}間^{つど}中^{つど}学^{つど}」^{つど}とい^{つど}う、^{つど}「^{つど}み^{つど}ず^{つど}か^{つど}ら^{つど}学^{つど}び^{つど}た^{つど}い^{つど}人^{つど}々^{つど}が^{つど}集^{つど}い、
^{しえん}そ^{ひとびつ}れ^{とも}支^{まなび}援^{じつげん}す^ほる^{ひろ}人^{ひろ}々^{ひろ}と^{ひろ}共^{ひろ}に^{ひろ}“^{ひろ}学^{ひろ}び^{ひろ}”^{ひろ}を^{ひろ}実^{ひろ}現^{ひろ}す^{ひろ}る^{ひろ}場^{ひろ}」^{ひろ}を^{ひろ}さ^{ひろ}ら^{ひろ}に^{ひろ}広^{ひろ}げ^{ひろ}
^{ひろ}て^{ひろ}ゆ^{ひろ}き^{ひろ}ま^{ひろ}す。

そ^{かくち}の^{じしゅ}た^{やかんちゅうがく}め^{もんだい}に、^{かだい}各^{はな}地^あの^あ自^あ主^あ夜^あ間^あ中^あ学^あの^あ問^あ題^あや^あ課^あ題^あを^あ話^あし^あ合^あい、
^{れんけい}連^{きやうりよく}携^{きやうりよく}や^{きやうせいしえん}協^{きやうせいしえん}力^{きやうせいしえん}を^{きやうせいしえん}し^{きやうせいしえん}な^{きやうせいしえん}が^{きやうせいしえん}ら、^{きやうせいしえん}行^{きやうせいしえん}政^{きやうせいしえん}支^{きやうせいしえん}援^{きやうせいしえん}な^{きやうせいしえん}ど^{きやうせいしえん}の^{きやうせいしえん}さ^{きやうせいしえん}ま^{きやうせいしえん}ざ^{きやうせいしえん}ま^{きやうせいしえん}な^{きやうせいしえん}要^{きやうせいしえん}望^{きやうせいしえん}を^{きやうせいしえん}あ^{きやうせいしえん}げ^{きやうせいしえん}
^{きやうせいしえん}て^{きやうせいしえん}い^{きやうせいしえん}き^{きやうせいしえん}ま^{きやうせいしえん}す。

そ^{ことし}の^{がつ}た^{ほんそうかい}め^{さきだ}に、^{さきだ}今^{さきだ}年^{さきだ}5^{さきだ}月^{さきだ}、^{さきだ}本^{さきだ}総^{さきだ}会^{さきだ}に^{さきだ}先^{さきだ}立^{さきだ}つ^{さきだ}て^{さきだ}「^{さきだ}夜^{さきだ}間^{さきだ}中^{さきだ}学^{さきだ}の^{さきだ}未^{さきだ}来^{さきだ}を^{さきだ}
^{かんが}考^{かいさい}え^{かいさい}る^{かいさい}」^{かいさい}パ^{かいさい}ネ^{かいさい}ル^{かいさい}デ^{かいさい}ィ^{かいさい}ス^{かいさい}カ^{かいさい}ッ^{かいさい}シ^{かいさい}ョ^{かいさい}ン^{かいさい}を^{かいさい}開^{かいさい}催^{かいさい}し^{かいさい}ま^{かいさい}す。

^{やかんちゅうがく}い^{にゅうがく}ま^{きぼう}夜^{かた}間^{かた}中^{かた}学^{かた}の^{かた}入^{かた}学^{かた}を^{かた}希^{かた}望^{かた}さ^{かた}れ^{かた}る^{かた}方^{かた}た^{かた}ち^{かた}は^{かた}つ^{かた}ぎ^{かた}の^{かた}よ^{かた}う^{かた}な^{かた}
^{じじょう}事^{かか}情^{かか}を^{かか}抱^{かか}え^{かか}て^{かか}い^{かか}ま^{かか}す。

①戦争や家庭の事情、病気などで小・中学校に行けなかった人。

②形の上では小・中学校を卒業していても、生活上で不便を

感じていて、基礎的な勉強をもう一度したい人。

③現在、さまざまな理由で中学校に行っていない人。

④外国籍や外国出身者で日本語が良く分からず、生活上で不便

を感じている人。

これらの事情について意見を交わし、各自主夜間中学の経験

を広め、新たな地域に“学びの場”をつくりだす活動をおこない

ます。

2. 北海道自主夜間中学交流集会による「全道自主夜間中学生・

生活体験発表会」の実施やスタッフ・支援者の授業見学と研修

交流をおこないます。

本年度は、9月29日(土)に、釧路市主催の「全道自主夜間中学

シンポジウム(協力：釧路くるかい・北海道に夜間中学をつ

くる会)が開催されます。

ここでも、道内各自主夜間中学の問題と課題について意見

交換をしながら、自主夜間中学生の「学びの場」の環境をいつ

そう充実する取組をおこないます。

3. 全国夜間中学校研究会と連携した活動を行います。「すべての人に義務教育を！特別委員会」（8月3日、『義務教育等学習機会充実法案（仮称）』の成立に向けた国会院内の集い）や、本年12月開催の全国夜間中学校研究大会（東京都）に参加し、道内においての公立夜間中学校の開設の運動につらなります。

4. 議会や行政へ働きかけを行います。北海道、道教委、道議会各会派、札幌市、市教委、札幌市議会各会派へ、その具体的な実現を求めます。

・小学・中学・高等学校などの教室使用

・既存の小学校、中学校での「義務教育未修了者」の受け入れ

・退職教員の紹介

・教室使用料など財政的支援

・公立夜間中学校の北海道と札幌市との共同設置

5. 札幌遠友塾の授業内容の充実を目指し、札幌市立向陵中学校の

教室使用の拡大と学校生徒、教職員、保護者や地域住民との

交流がはかられてきております。それをいっそう深めるために、

札幌市教育委員会と窓口レベルの交渉をし、札幌遠友塾文化

祭や公開授業などの実施が検討されていることなど、具体的な

じつげん はたら
実現がはかれるよう働きかけをおこないます。

ねん ぜんどうじしゅ やかんちゅうがく しゅさい さっぽろし
2013年の「全道自主夜間中学シンポジウム」主催を札幌市に

ようぼう
要望します。

ちゅう まどぐちこうしょう ほっかいどう やかんちゅうがく かい じ む きょくちょう
注) 窓口交渉は、北海道に夜間中学をつくる会から事務局長と

じむきょくじちょう めい さっぽろ えんゆうじゅく ふくだいひょう めい し きょうい
事務局次長2名、札幌遠友塾から副代表1名とで、市教委

しょうがいがくしゅうすいしんか ぐたいてき かだい
生涯学習推進課と具体的な課題ごとにおこなっております。

どうないかくじしゅ やかんちゅうがく しょう ちゅうがっこう そつぎょう
6. 道内各自主夜間中学においても、小・中学校を卒業してい
ても、生活上で不便を感じていて、基礎的な勉強をもう一度し
たい人が増えてきています。

じじょう ふとうこう こ まな けんり まも こ
そのような事情から不登校の子どもたちの学ぶ権利を守り、子
どもたちの豊かな成長を願い活動しているフリースクールと
れんけい そうご きちょう けいけん こうりゅう ふか ば ほうほう み
連携し、相互の貴重な経験を交流し深めていく場と方法を見つけ
ていきます。